

▽取組事例名

特色ある人事施策（ちゃんぼん係長等）による地域活性化

▽取組期間

平成22年4月1日～
（継続中）

▽取組概要

「八幡浜ちゃんぼん」という地域資源を活かした地域活性化施策を推進するため、大城市長の発案により、「商工観光係長・ちゃんぼん担当」いわゆる「ちゃんぼん係長」として担当職員を配置することで、メディアや雑誌の取材等を有効に活用した積極的なPRと職員と市民を巻き込んだ新たな事業展開によって地域の活性化に取り組んでいる。

▽取組みの背景

人口3万7千人の小さなまちであるにも関わらず、八幡浜市民のソウルフードとして50店舗以上で提供されてきた「ちゃんぼん」は、あまりに身近な食べ物すぎて、地域資源として着目されることはなかった。しかし、平成18年に八幡浜商工会議所青年部が地域活性化の取組みとして、「八幡浜ちゃんぼんプロジェクト」を立ち上げ、ご当地グルメを活かしたまちおこし活動として、平成19年4月に「八幡浜ちゃんぼんバイブル」を発行し、大きな注目を集めた。このような状況の中、行政としても、この取組みを全面的に支援・継承し、新たな事業展開を図ることで、より大きな効果を産み出すことが期待されていた。

▽取組みの狙い・具体的内容

（取組みの狙い）ご当地グルメの名称を用いた「ちゃんぼん担当」職員を設置することで、市の重点施策として推進することを職員に周知し、市民に理解してもらうとともに、報道機関等を活用して「八幡浜ちゃんぼん」と八幡浜市を全国に広くPRする。また、市への入込客数の増加による交流人口拡大と地元特産品の販売促進に繋げることで地域の活性化を図るとともに、将来を担う子供たちが元気なふるさと八幡浜に誇りを持ち、次世代に引き継いでいくことを目的とする。

（具体的内容）平成22年4月1日に商工観光課内に「商工観光係長・ちゃんぼん担当」いわゆる「ちゃんぼん係長」を設置した。ちゃんぼん係長は、マントやちゃんぼんベルト等の目立つコスチュームを着用して数多くのイベントに出向き積極的にPR活動に取り組んだほか、ちゃんぼん係長が中心となり、次々に事業を実施した。主な事業は、提供店に掲げる「八幡浜ちゃんぼんのぼり」、「食べ歩きマップ」、「PRキャラクター」の3種の神器をはじめとするPRグッズ等の制作であり、キャラクターのデザインは全国公募し、ちゃんぼん店スタンプラリーの参加者に名称を募集した結果、ゆるキャラ「はまぼん」が誕生した。平成23年には、着ぐるみ製作のほか、はまぼんがデザインされた公用車（これデモカー）やエコバッグ、はまぼんの等身大看板、はまぼんおススメの美味しい店を紹介するガイドブックを作成したほか、PRソング「八幡浜ちゃんぼん物語」を作曲し、より多くの方に八幡浜市への愛着を持ってもらう取組みを行った。また、クールビズ期間中、市職員が制服として「ちゃんぼんポロシャツ」を着用するなど、全庁体制でのPR活動と全職員の意識改革に取り組んだ。平成24年には全国ご当地ちゃんぼんサミットへ参加し、ちゃんぼんを通して地域おこしに取り組む全国の15地域の同志と連携したPRを開始した。平成25年には、市内のちゃんぼん提供店の有志で構成する「八幡浜ちゃんぼん食べ店（てん）会」を設立し、来訪者へのサービス向上等に取り組んでいる。なお、取組み開始から現在に至るまで、職員と提供店が協力して、県内外の数多くのグルメイベントに年間を通して出店し、多くの方に「八幡浜ちゃんぼん」を味わってもらい、八幡浜市のPRと「八幡浜ちゃんぼん」のファン拡大に取り組んでいる。

▽取組みを進めていくなかでの課題・問題点（苦労した点）

「ちゃんぼん係長」の設置当初は、行政がどうしても特定の一メニューである「ちゃんぼん」だけをPRするかという批判的な意見も一部であったが、ちゃんぼんはPRのための一つの切り口であり、ちゃんぼんを通して八幡浜市の情報発信を行うものであるとの考えのもと、市民の理解を得ながら各種事業に取り組んできた。

☆工夫した点

「ちゃんぼん係長」という強烈なインパクトと興味をそそるネーミングの担当職員を設置したことで、当該施策を市内外に広くPRできた。また、人目を引く派手なコスチュームを着用したちゃんぼん係長が多くのイベントに参加したことや話題性が一層高まり、次々にメディアの取材を受けた結果、PR効果も一過性のものに終わらず、平成25年5月には、ちゃんぼん係長をモデルにしたラジオドラマが全国放送されるなど、長期間にわたるPRと事業展開につながった。また、「はまぼん」の誕生以降は、「はまぼん」を前面に出しながらも、必要に応じて共演するなど、現在も臨機応変な対応を心がけている。なお、各種PRグッズ等の制作については、愛媛県の「新ふるさとづくり総合支援事業補助金」を活用して、効果的かつ効率的な事業の実施に努めた。

▽取組みの効果

「ちゃんぼん係長」の設置によって、地域活性化施策のプロジェクトリーダー兼広告塔として、担当者がこれまで以上に強い自覚と責任感を持って仕事に取り組むことはもちろん、市の姿勢を明確に打ち出したことで市職員の意識改革と住民の意識啓発も図れた。また、ネーミングや係長のコスチューム姿が話題となり、報道関係の取材やメディアへの出演機会が増加したことで、ほとんど経費をかけずに「八幡浜ちゃんぼん」を広くPRできた。その結果、市外から多くのお客様がちゃんぼんを目当てに訪れ、土日には行列が並ぶお店もできたほか、作成したマップやのぼりは食べ歩き観光客の呼び水となり、交流人口の拡大に繋がっている。PRキャラクター「はまぼん」については、ゆるキャラブームもあって、キャラクターの使用申請も年々増加し、ちゃんぼん関連製品への使用やキャラクターグッズの製作など市民の間に広く浸透してきた。また、「八幡浜ちゃんぼん食べ店会」では、これまで集まることのなかった提供店同士が意見交換を重ねて、観光客や来店客へのサービス向上に取り組んでいるほか、若い後継者も育ってきている。さらには、担当以外の市職員においても「ちゃんぼんポロシャツ」を着用して出張や会議に出席するなど、職員個人個人が「八幡浜ちゃんぼん」のPRに取り組んできたところ、「ちゃんぼんポロシャツ」を制服にする銀行や、名刺や業務用車両にはまぼんのデザインを使用する地元企業が現れ、行政と住民、企業が一体となって、ちゃんぼんによる町おこしに取り組む動きが生まれている。

▽住民（職員）の反応・評価

「八幡浜ちゃんぼん」は、県内ではある程度の知名度が得られたと認識しているが、全国的な知名度はまだまだであり、今後は県外での知名度アップも求められている。また、市民の実感として、八幡浜ちゃんぼんの知名度向上が、どの程度八幡浜市全体の活性化に繋がっているのかが見えにくいという意見もあるため、新たな企画の実施や関係団体との幅広い連携体制の構築が求められている。

☆取組み効果を踏まえたフォローアップ

今後も引き続き「八幡浜ちゃんぼん」と八幡浜市をPRしていくため、新規事業の実施と継続的な情報発信に努めるとともに、八幡浜ちゃんぼんの知名度向上を突破口として、八幡浜の観光・物産はもとより、市全体に効果を波及させ、更なるまちの活性化につなげる。そのためには、行政主体ではなく市民が積極的に関与できる環境を整備して、官民協働で施策を推進する体制づくりに取り組む。

☆将来的な構想のほか、他団体へのアドバイス

ご当地グルメによる地域おこしは、高い志と行動力のある地域住民が中心となって活動をしているケースが主流である。地域活性化は、やる気のある人や、行政に任せておけばよいという考え方があられるかもしれないが、本来は行政職員を含めて市民一人ひとりが当事者意識を持って取り組むべきであり、一人が大きな負担を背負うのではなく、それぞれが出来ることから始め、少しずつでも関わりを持ち続けていくことが大切だと思う。本市の取り組みは、現状では、行政が主体となった取り組みかもしれないが、この取り組みが地域活性化施策として方向性が間違っていないかを常に確認しながら、一年一年継続し、積み重ねていくことが重要である。この継続の中で、行政には出来ない部分や問題にぶつかる場面が必ずくるため、市民が関わりやすい環境を作るとともに、行政と市民が互いにカバーし合いながら一步一步確実に歩を進め、真の地域活性化に繋げていきたい。

なお、平成26年4月1日には少子化・人口減少対策として、「縁結び担当」職員を配置し、現在、市内在住独身男女の結婚促進に向けて準備を進めているところであり、「ちゃんぼん係長」に続く特色ある人事施策として市内外に広くPRするとともに、市民と協力しながら市の重要課題に全力を挙げて取り組んでいる。